

地域がん登録全国協議会 第22回学術集会の報告

加藤 哲郎 第22回学術集会会長

秋田大学 名誉教授
秋田県総合保健センター 顧問

去る6月13、14の両日、「全国ネットワークと地域還元」をテーマとして秋田市のキャッスルホテルと秋田県総合保健センターを会場として第22回学術集会と実務者研修会を開催いたしました。遠隔の地にもかかわらず、北は北海道から南は沖縄におよぶ全国36都道府県から、延べ268名にのぼる多数の参加がありました。

初日の実務者研修会では5名の講師から、登録の品質と完全性、さらには英仏比三ヶ国の登録事業の実情について、それぞれ興味深い講話があり、132名の参加者が熱心に聴取して活発な質疑応答がありました。

二日目の学術集会には136名の参会者があり、午前に会長講演「真実は個にあり」、妹尾春樹秋田大学教授の特別講演「シロクマと北極圏生物の不可思議」、総会、そして25演題のポスター発表があり、午後は杉山裕美氏の学術奨励賞受賞講演に続いて学術委員会企画シンポジウム「地域がん登録の課題と展望」と、多彩なプログラムが終日繰り広げられました。

今回は、当登録室の佐藤、原田の両名が早々にホームページを立ち上げ、イメージキャラクター“かにくまくん”を登場させて学術集会の広報と事務連絡に八面六臂の働きをしてくれました。そして全国各地からの参会者に秋田の風土を味わって頂こうと、手作りの趣向をいろいろと凝らしました。情報交換会の食材は秋田地産とし、県内30の醸造元から日本酒を揃え、佐藤らによるゴスペルソングによって交歓の場を盛り上げたつもりです。秋田の思い出にしていだければ幸甚の至りです。



▲イメージキャラクター“かにくまくん”とゆかいななかまたち

諸事至らぬことが多かったと思いますが、会員諸氏の熱意と協力で大変充実したプログラムを執り行うことができました。本稿を借り、改めて御礼申し上げます。

国立がん研究センター がん対策情報センター がん統計研究部 地域がん登録室便り

松田 智大 松田 彩子

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん統計研究部 地域がん登録室

ぼーっとしていたわけでもないのに、いつの間にか夏ですね。

1 がん登録の標準化と専門家パネル

標準システム利用地域は、宮崎県、岐阜県が加わり、37/47地域となりました。これまで、導入と運用を、対がん研究班の分担研究者の先生方にサポートしていただいておりますが、今年度は、地域がん登録標準システム利用推進専門家パネルを立ち上げ、その枠組みで御協力いただくこととしました。パネルの活動が、標準的作業手順の普及と発展に貢献することになるでしょう。

2 平成25年度第1回行政担当者研修

去る5月8日、地域がん登録行政担当者研修を開催し、36名の参加がありました。ほとんどの方は新規着任で、がん登録実務も未経験でしたが、研修を経てある程度の理解を得たという評価を頂きました。テキストの視認性を高め、余裕をもったプレゼンをするなど、御指摘いただいた点を改善するとともに、地域がん登録全国協議会との連携も引き続きはかっていきます。

3 全国がん罹患モニタリング集計及び10年後調査の実施

研究班活動として、41県を対象に、データ提出依頼をし、集計作業をする予定です(MCIJ2009-10)。2010年症例を提出できる県が多ければ、全国集計の対象年を1年早められるかもしれません。また、2009年症例で精度基準を達成する県は30を超えるのではないかと、ということにも期待が膨らみます。第3次対がん10年の締めくくりの評価として、「地域がん登録の標準化と精度向上に関する10年後調査」も、MCIJと同時期に実施予定です。

4 第3次対がん「がんの実態把握に関する研究」班報告会

今年度最後の年となった第3次対がん研究班による、地域がん登録事業会議を7月24日にがん研究振興財団国際研究交流会館にて開催する予定です。今年度の研究班の活動計画を皆様にお伝えし、御意見を頂くことで活動に役立てたいと思っております。都道府県間の交流にも、是非お役立てください。